

## 鈴鹿の景況 2024 年上期

### 調査結果まとまる

6 期ぶり現状 D I 値の悪化後、横ばい水準。建設業に改善の兆し。

鈴鹿商工会議所  
中小企業相談所

#### (総 括)

鈴鹿商工会議所では、鈴鹿地域の企業の業況と今後の見通し、問題点等を把握するため、会員企業を対象に毎年 1 月と 7 月に景気動向調査を行っている。このたび 2024 年上期（1 月～6 月期）の調査結果がまとまった。

全体の景気動向として、前期調査（2023 年 7 月～12 月期）と比較すると、現状 D I 値は  $\Delta 22.4$  となりほぼ横ばいとなった。

業種別に見ると、前期 D I 値と比較して建設業と小売業、飲食業で改善が見られた。特に建設業では、マイナス幅の縮小がみられ改善が見られた。小売業の D I 値が低く  $\Delta 41.9$ （前期  $\Delta 47.2$ ）という結果となった。実際の小売店舗の声としては「主力商品の需要が高まった」という声がある一方、「物価高騰による買い控えが影響している」という声があった。また、輸入品を扱っている業者の業績の悪化の原因は、円安による原材料の高騰の影響が大きいと考えられる。

業種全体としては、現状 D I 値が  $\Delta 22.4$  となり前期  $\Delta 22.9$  と比較して 0.5 ポイントとほぼ横ばいを示した。前期調査より新型コロナウイルス感染症以前の水準を持ち直しているが、物価・原材料価格の高騰による買い控えの影響や、価格転嫁ができていないという声が多かった。

また、見通し D I 値も  $\Delta 27.8$ （前期  $\Delta 28.1$ ）と横ばいを示しており、経済回復は鈍化の見通し。加えて、能登半島地震や自動車産業での認証不正による減産や稼働停止による影響により、今後の経済への影響にも不安が高まっている。

(対象 1,100 社 回答企業 339 社、 回答率 30.8%)

#### D I 値 (ディフュージョン・インデックス)

D I とは、景気動向を示す指標で、調査時点における企業家の経済行動（強気や弱気など）を知るためのものである。景気動向を客観的に判断する資料として幅広く使用されているもので、特に言及がない限り、「増加」「好転」したとする企業から、「減少」「悪化」したとする企業割合を差引いた値である。

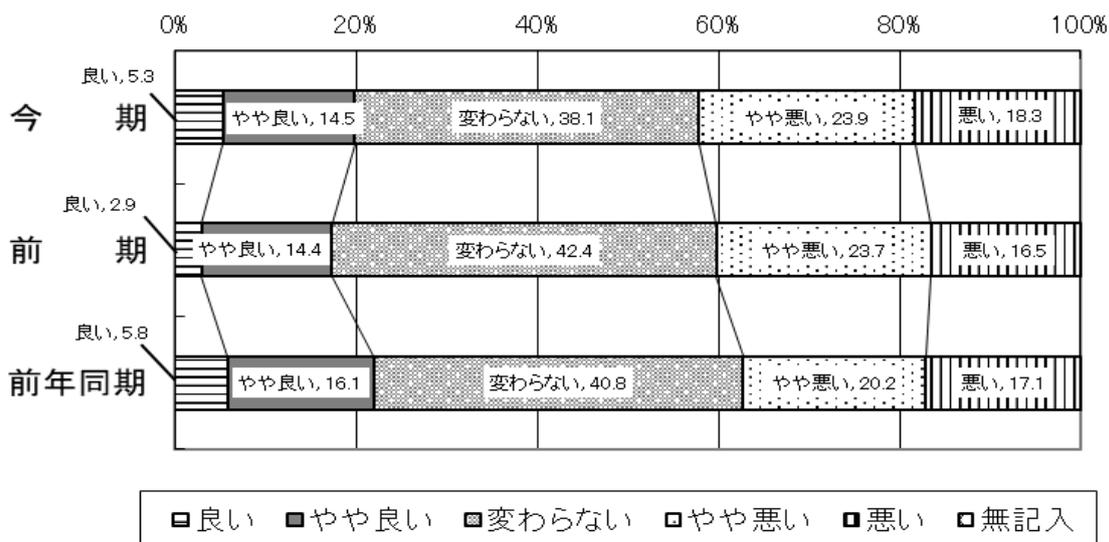
#### ●現状の景気について (図-1・3 参照)

「良い」「やや良い」は 19.8%（前期 17.3%：前年同期 21.9%）、「やや悪い」「悪い」は 42.2%（前期 40.2%：前年同期 37.3%）となった。

景気動向を示す D I 値は、 $\Delta 22.4$ （前期  $\Delta 22.9$ ：前年同期  $\Delta 15.4$ ）と前期より 0.5 ポイントとほぼ横ばい、前年同期より 7.0 ポイント悪化している。

業種別では、製造業 D I 値  $\Delta 37.7$ （前期  $\Delta 28.3$ ：前年同期  $\Delta 26.0$ ）、建設業 D I 値  $\Delta 9.5$ （前期  $\Delta 19.0$ ：前年同期 5.3）、卸売業 D I 値 7.7（前期データなし：前年同期  $\Delta 50.0$ ）、小売業 D I 値  $\Delta 41.9$ （前期  $\Delta 47.2$ ：前年同期  $\Delta 52.3$ ）、飲食業 D I 値  $\Delta 20.0$ （前期  $\Delta 20.8$ ：前年同期  $\Delta 4.7$ ）、サービス業 D I 値  $\Delta 15.3$ （前期  $\Delta 14.8$ ：前年同期  $\Delta 18.9$ ）となった。

図-1 現状について



●今後の景気見通しについて (図-2・3 参照)

「良い」「やや良い」は 12.9% (前期 12.6% : 前年同期 15.4%)、「やや悪い」「悪い」は 40.7% (前期 40.7% : 前年同期 39.3%) となった。

DI 値は、△27.8 (前期△28.1 : 前年同期△23.9) と前期から 0.3 ポイントほぼ横ばい、前年同期より 3.9 ポイント悪化している。

業種別では、製造業 DI 値△42.6 (前期△31.7 : 前年同期△40.0)、建設業 DI 値△18.3 (前期△29.7 : 前年同期△7.3)、卸売業 DI 値△15.4 (前期△22.2 : 前年同期△25.0)、小売業 DI 値△39.6 (前期△52.7 : 前年同期△64.3)、飲食業 DI 値△40.0 (前期△12.5 : 前年同期△4.6)、サービス業 DI 値△13.4 (前期△12.7 : 前年同期△18.9) となった。

図-2 今後の見通し

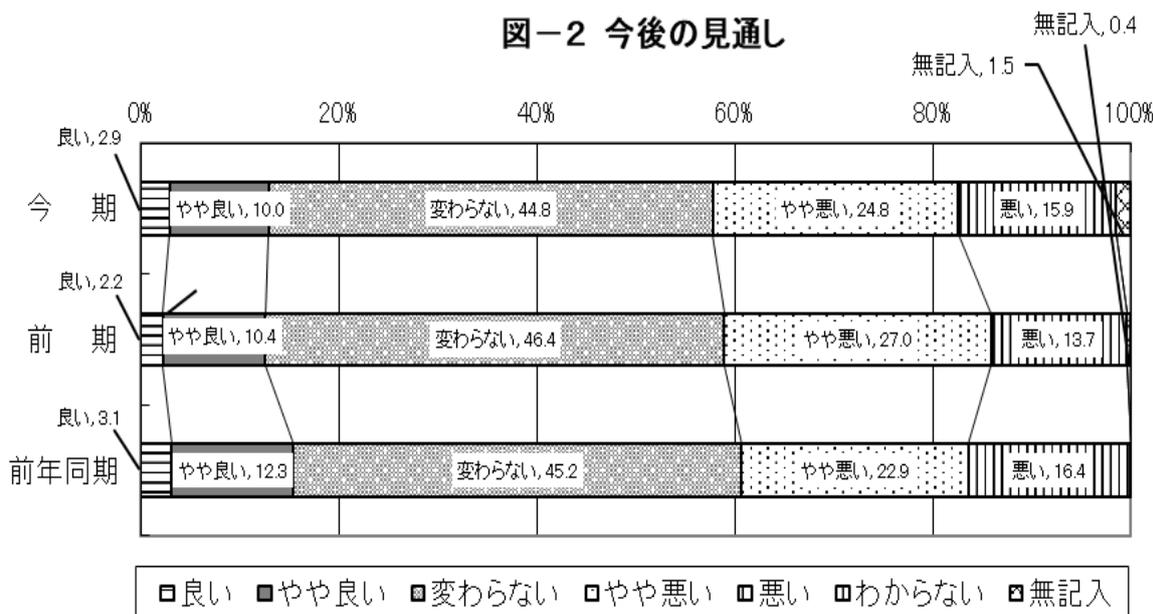
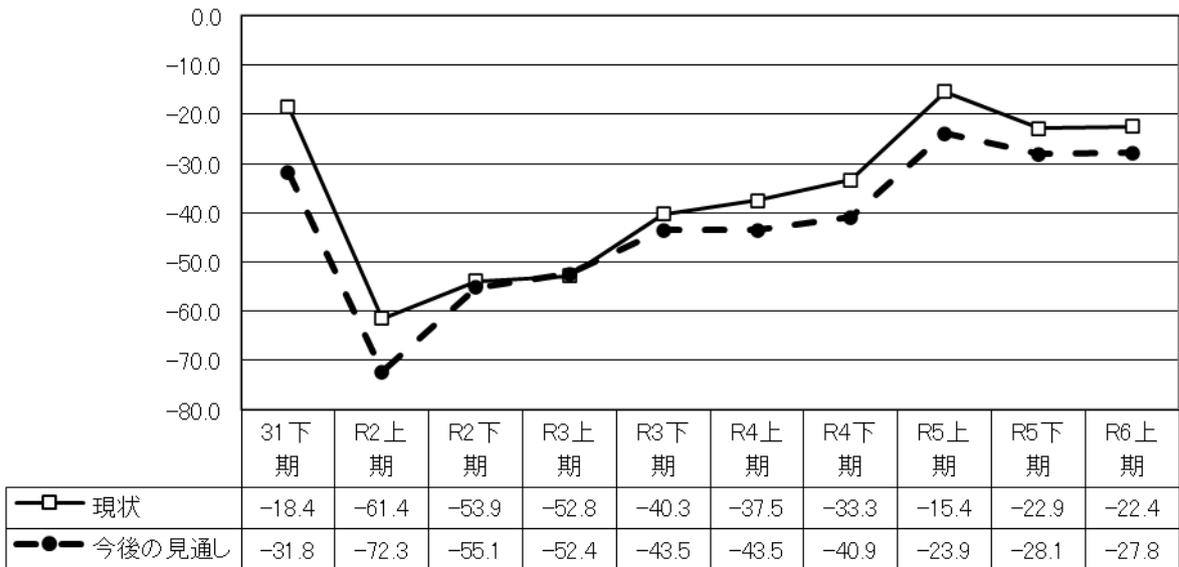


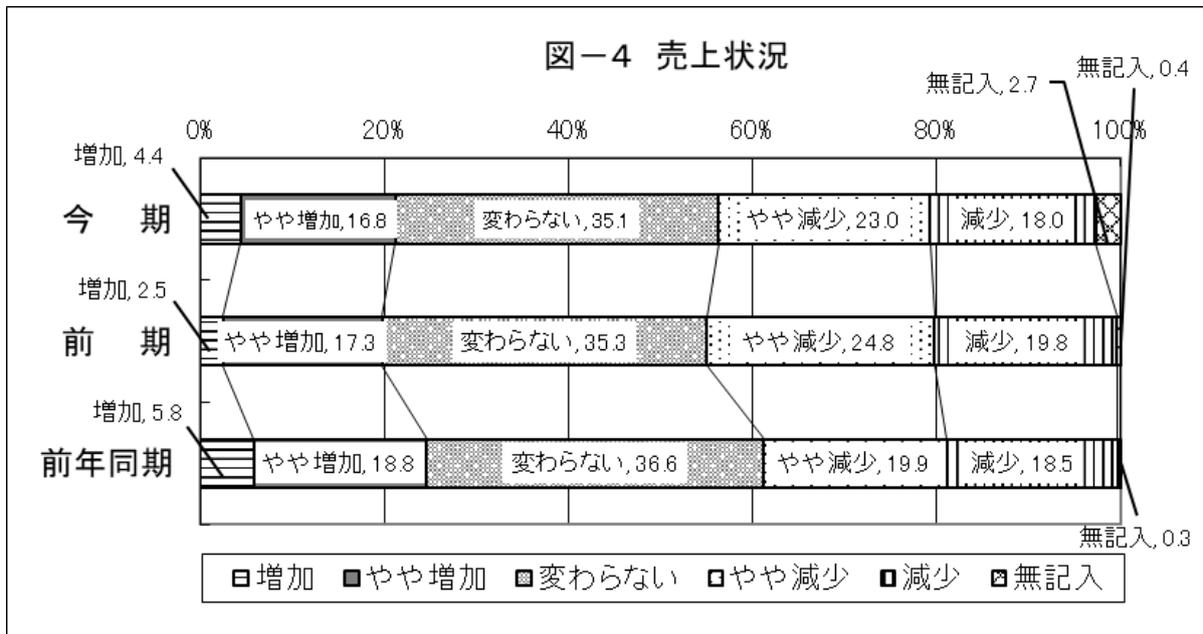
図-3 現状と今後の見通しの推移



●売上状況について (図-4 参照)

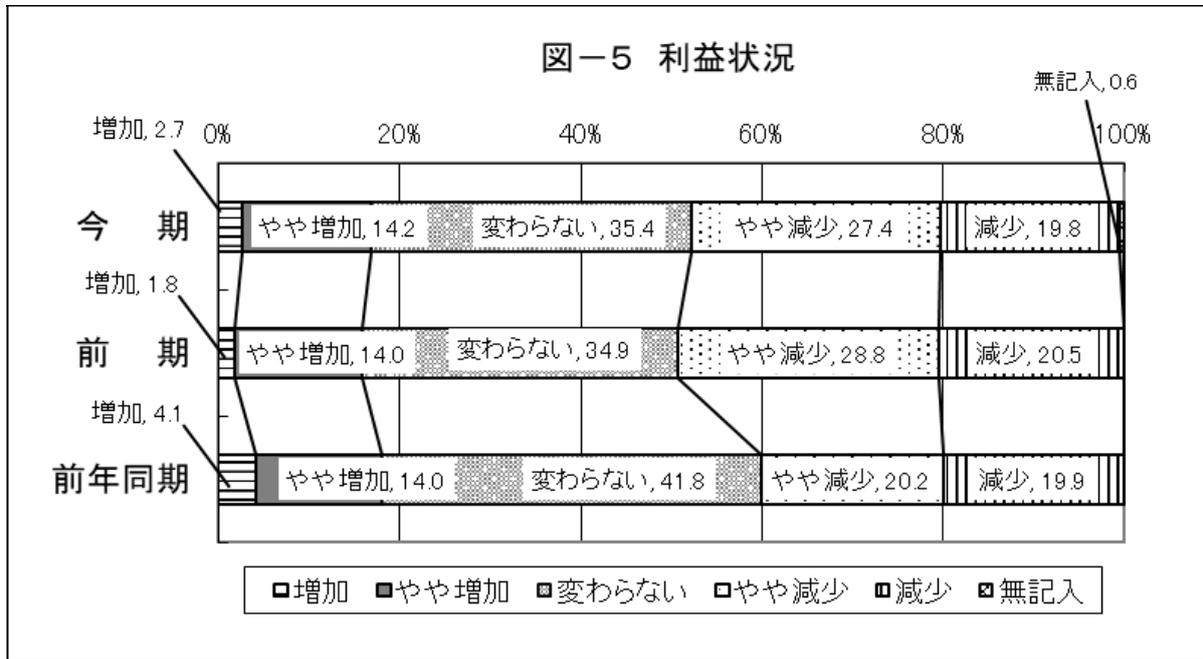
「増加」「やや増加」は 21.2% (前期 19.8% : 前年同期 24.6%)、「やや減少」「減少」は 41.0% (前期 44.6% : 前年同期 38.4%) となった。DI 値は△19.8 (前期△24.8 : 前年同期△13.8) と前期より 5.0 ポイント改善、前年同期より 6.0 ポイント悪化している。

図-4 売上状況



●利益状況について（図-5 参照）

「増加」「やや増加」は16.9%（前期15.8%：前年同期18.1%）、「やや減少」「減少」は47.2%（前期49.3%：前年同期40.1%）となった。DI値は△30.3（前期△33.5：前年同期△22.0）と前期より3.2ポイント改善、前年同期より8.3ポイント悪化している。



経営上の問題点(上位3位)

(%)

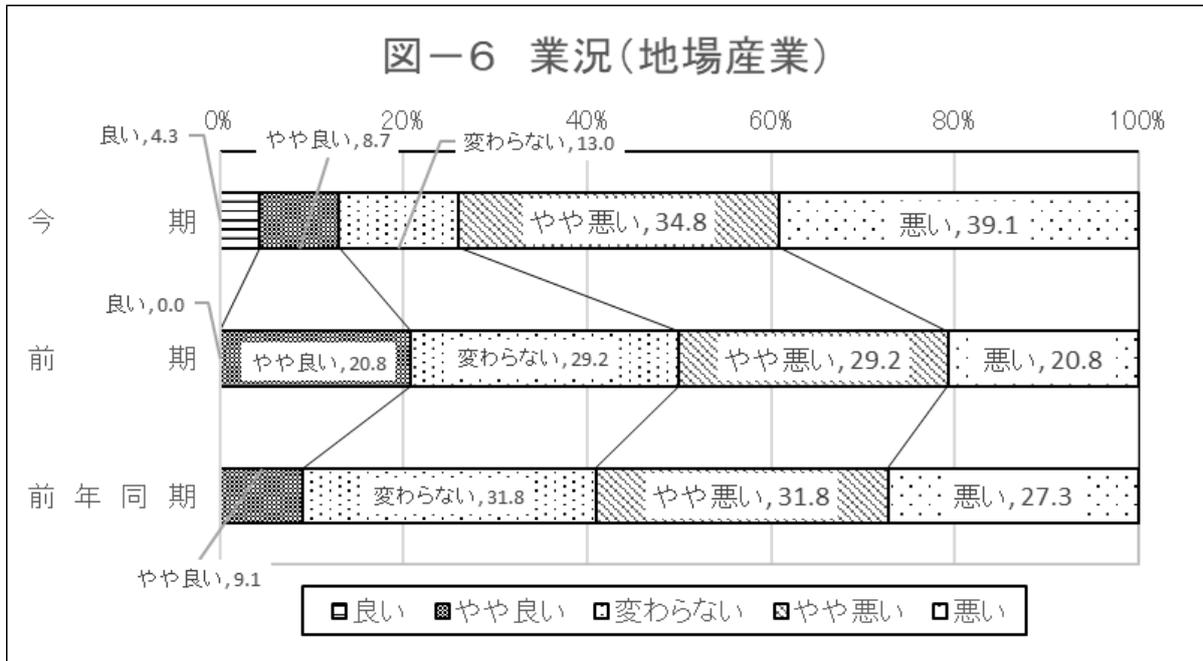
|             |                      | 第1位  | 第2位   | 第3位                        |
|-------------|----------------------|--|---|----------------------------|
| 業<br>種<br>別 | 製造業                  | 売上・受注の停滞減少<br>(55.7)   | 原材料高及び不足<br>(39.3)                          | 設備店舗の狭小老朽化<br>(24.6)       |
|             | 卸売業                  | 売上・受注の停滞減少<br>人手不足<br>設備店舗の狭小老朽化<br>(30.8)                   | 人件費の増加<br>人件費以外の経費の増加<br>原材料高及び不足<br>(15.4) |                            |
|             | 小売業                  | 売上・受注の停滞減少<br>(60.5)   | 設備店舗の狭小老朽化<br>(23.3)                        | 原材料高及び不足<br>競争激化<br>(20.9) |
|             | 建設業                  | 人手不足<br>(44.3)   | 原材料高及び不足<br>(33.0)                          | 売上・受注の停滞減少<br>(32.2)       |
|             | 飲食業                  | 原材料高及び不足<br>(65.0)   | 売上・受注の停滞減少<br>(45.0)                        | 人件費以外の経費増加<br>(20.0)       |
|             | サービス業                | 売上・受注の停滞減少<br>(36.5)   | 原材料高及び不足<br>(32.7)                          | 人件費以外の経費<br>増加<br>(23.1)   |
|             | 交通運輸業                | 売上・受注の停滞減少<br>人手不足<br>原材料高及び不足<br>競争激化<br>法的規制等の問題<br>(33.3) |   |                            |
|             | その他                  | 売上・受注の停滞減少<br>(41.4)   | 設備店舗の狭小老朽化<br>(31.0)                        | 原材料高及び不足<br>(24.1)         |
| 総合          | 売上・受注の停滞減少<br>(42.2) | 原材料高及び不足<br>(33.3)   | 人手不足<br>(26.5)                              |                            |
| 前年同期        | 売上・受注の停滞減少<br>(38.4) | 原材料高及び不足<br>(34.9)   | 人手不足<br>(24.7)                              |                            |

## 地場産業—自動車関連

### ●現状の業況と今後の業況見通しについて

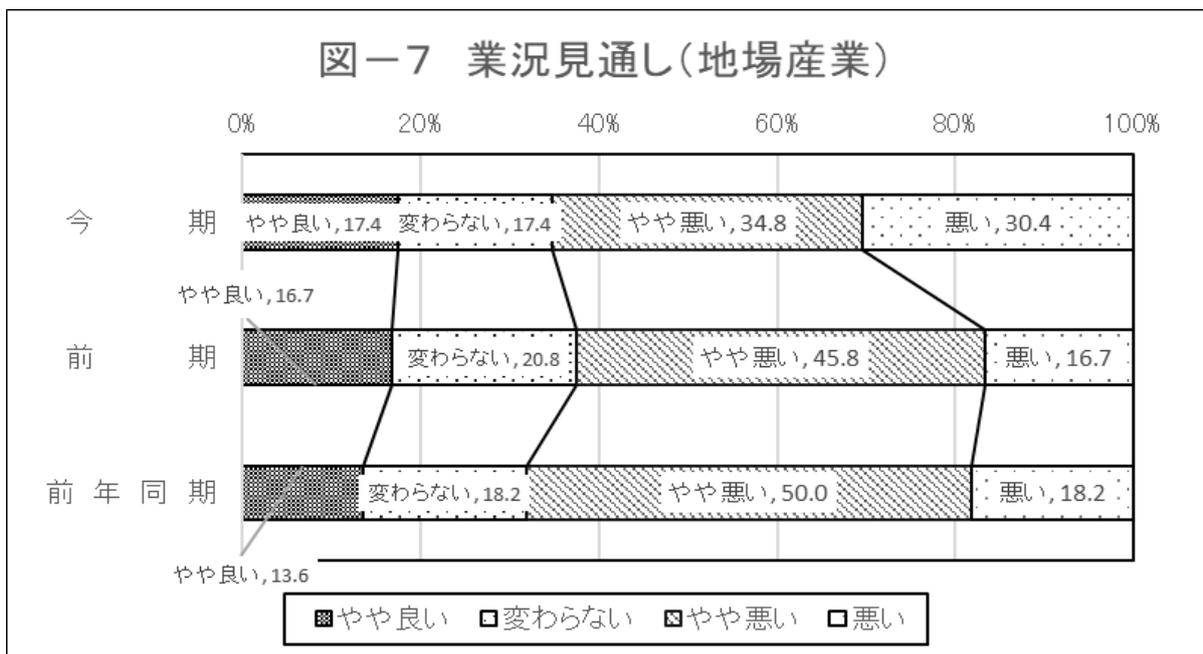
#### a) 現状の業況について (図-6 参照)

「良い」「やや良い」は13.1% (前期20.8% : 前年同期9.1%)、「やや悪い」「悪い」は73.9% (前期50.0% : 前年同期59.1%) となった。DI値は△60.9 (前期△29.2 : 前年同期△50.0) と前期より31.6ポイント、前年同期では10.8ポイント悪化している。



#### b) 今後の業況見通しについて (図-7 参照)

「良い」「やや良い」は17.4% (前期16.7% : 前年同期13.6%)、「やや悪い」「悪い」は65.2% (前期62.5% : 前年同期68.2%) となった。DI値は△47.8 (前期△45.8 : 前年同期△54.5) と前期では2.0ポイント悪化、前年同期より6.7ポイント改善している。



## ●売上状況と今後の見通しについて

### a) 売上状況について

「増加」「やや増加」13.1%（前期25.0%：前年同期22.7%）、「やや減少」「減少」は73.9%（前期45.8%：前年同期50.0%）となった。DI値は△60.9（前期△20.8：前年同期△27.3）と前期より40.1ポイント、前年同期より33.6ポイント悪化している。

### b) 売上の見通しについて

「増加」「やや増加」は17.4%（前期16.7%：前年同期9.1%）、「やや減少」「減少」は47.8%（前期50.0%：前年同期45.5%）となった。DI値は△30.4（前期△33.3：前年同期△36.4）と前期より2.9ポイント、前年同期より6.0ポイント改善している。

## ●利益状況について

「増加」「やや増加」は8.7%（前期12.5%：前年同期9.1%）、「やや減少」「減少」は78.3%（前期50.0%：前年同期63.6%）となった。DI値は△69.6（前期△37.5：前年同期△54.5）と前期より32.1ポイント、前年同期より15.1ポイント悪化している。

## ■お問い合わせ

鈴鹿商工会議所中小企業相談所

TEL：059-382-3222

FAX：059-383-7667